

蚊が媒介する感染症

②日本脳炎



【概要】

- 日本脳炎ウイルス（デングウイルスと同じフラビウイルス科）による感染症。
- ワクチンがあり、現在は予防接種が勧奨されている。
- 特別な治療法はなく、対症療法が行われる。

【感染経路】

- 日本脳炎ウイルスに感染しているブタ・ウマ・鳥類を吸血した蚊（コガタアカイエカ）がヒトを刺さすことで感染。
- ヒトからヒトへの感染はしない。

【潜伏期間・症状】

- 潜伏期間は6～16日。
- 38℃以上の高熱、頭痛、悪心、おう吐、めまいなどが出た後、意識障害や痙攣、体の麻痺などが起こる。
- 感染しても発病するのは100～1000人に1人程度、大多数は無症状のまま経過。

【予防対策】蚊に刺されないこと！

- ①屋外で活動する場合は、肌の露出が少ない長袖・長ズボンの着用を心掛け、素足にサンダル履きは避ける。
- ②虫よけスプレー・蚊の忌避剤等を利用（屋内外共に）。
- ③建物のドアや窓の開閉を減らし、網戸を利用し蚊の侵入を避ける。室内に侵入した蚊は駆除を心掛ける。
- ④屋外に雨水がたまるもの（空き缶、植木鉢の受け皿等）や水たまり等、蚊の幼虫（ボウフラ）の発生源を作らない。

